

序論 近世日本の儒礼実践——東アジアの視点から 7

一 新しい近世思想史研究への視座 7

二 本書の構成 22

第一章 熊沢蕃山の儒礼葬祭論と『葬祭辨論』 31

一 熊沢蕃山の水土論と儒礼観 33

二 熊沢蕃山の葬祭論 38

三 熊沢蕃山の著作か？『葬祭辨論』考 43

四 『葬祭辨論』の内容 45

第二章 崎門派の『文公家礼』に関する実践的言説 62

一 『家礼』喪祭礼に関する崎門派の実践的言説 63

二 崎門派の死生観と鬼神観 73

三 喪祭礼をめぐる儒者たちの思想的位 80

### 第三章 浅見綱斎の『文公家礼』実践とその礼俗観 98

- 一 『喪祭小記』の著述から『家礼』の実践へ 100
- 二 綱斎の『家礼』実践と『家礼師説』 108
- 三 綱斎の礼俗観——礼と俗の調和と葛藤 112
- 四 『喪祭小記』の後世への影響 119

### 第四章 水戸藩の儒礼実践——『喪祭儀略』を中心に 130

- 一 『喪祭儀略』改訂前後の諸本 132
- 二 『喪祭儀略』内容の変遷とその意義 138
- 三 後期水戸学の儒礼に関する実践的言説 144

### 第五章 懐徳堂における儒教儀礼の受容——中井家の家礼実践を中心に 158

- 一 『喪祭私説』の成立過程 160
- 二 『喪祭私説附幽人先生服忌図』写本の内容とその意義 162

第六章 懷徳堂の儒礼祭祀と無鬼論 198

- 一 『喪祭私説』の祭礼と中井家の儒礼祭祀 199
- 二 並河寒泉日記『居諸録』にみる懷徳堂知識人の祭祀活動 205
- 三 無鬼論と鬼神祭祀論の間 211
- 四 無鬼こそ祭祀 223

結論 儒礼実践において思想を生きる知識人たちの諸相 233

- 一 礼文——近世日本知識人は礼制の構築と儒礼実践に努めた 235
- 二 礼器——近世日本知識人は礼に従い俗に即して礼器を制作した 241
- 三 礼意——近世日本知識人は儒教の礼楽文明を追求した 243

補論一 江戸日本における儒礼実践の中の『論語』 253

一 崎門派朱子学者の喪祭礼実践と『論語』解釈 255

二 懐徳堂知識人における喪祭礼実践と『論語』解釈 260

補論二 中井竹山・履軒の礼学についての一考察 273

一 懐徳堂の礼学著作 275

二 竹山・履軒の礼説——「忌日」、「禫祭」をめぐる議論を例に 281

三 竹山・履軒の礼学思想と『喪祭私説』およびその儒礼実践の関係 286

参考文献 299

初出一覧 313

あとがき 315

人名・事項索引 卷末